

## 夏休み経済教室 東京高校対象 記録

### 8月22日(月) 東京会場 高校対象

土曜日から降り続く雨。先週の暑さがうそのような25度前後の東京である。  
セミナーの最後を飾るのは高校教師対象の二日間である。初日は、144名の参加。

#### 第一講義 榊原宏司先生「高校教科書で教える金融・証券の仕組み」

これまでの講義とほぼ同様の内容であるが、概略メモを掲載する。

＜渋沢の功績＞…金融（第一国立銀行、東京株式取引所）、運輸（日本郵船）、製造（王子製紙、大阪紡績など）という産業発展にすべてからんでいる  
大阪紡績の意義…政府の失敗に対して民間の成功という位置づけができる  
日本の産業革命のなかでの転換点的な工場が大阪紡績  
後半は現代でいうCSR活動に従事

#### ＜株式会社と直接金融＞

概略の確認…企業の目的、株式会社の特色、企業経営と株価、配当の関係など  
間接金融は資金転換をすることである…ただし日本の銀行は45%は株式債券を購入している

直接金融…証券が代表

証券市場には二種類ある…発行市場（特に場があるわけではない、いつでも購入できるわけではない）、流通市場（取引所がある、上場は流通市場で売買できること）TOBは証券取引所の流通市場外で集めてくる。

#### ＜大震災と東京電力＞

日本経済、株価が回復基調だったところに地震が襲う  
サプライチェーンの分断

東京電力の話…29年ぶりの増資、株価は2000円強、最安値で140円台、現在400円程度

東京電力の株主には年金基金などが入っている

株価低落と無配で株主は責任をとった

東電を巡るステークホルダー関係者の利害関係

原発…来年の5月には定期点検原発が再開しないとゼロになる

東電の損害賠償金額…5.7兆円から20兆円まで範囲によって異なる

産業界のエネルギー見解…原発を今止めるわけにはいかない（安全に動かせる原発だけを動かすしかない）現実的に対応するしかない

#### 第二講義 西村理先生「大学入試問題を通して経済を教える」

入試問題資料を使いながら講義をすすめる。取り上げたテーマは他会場と同じであるが、時間配分に配慮され、軽重を付けながら話を進められた。講義のメモは以下のとおりである。

#### ＜経済学の系譜＞

系譜図と青山学院大学の入試問題と関連して講義する

アダムスミスの三つの視点…①分業（ピン工場） ②見えざる手（競争市場のメリット）  
③希少性（水とダイヤモンドのパラドックス）

ケインズの経済学…新古典派経済学への批判（失業はうまれにくい）の三つの論点…①現代資本主義は企業規模が大きい ②時間的要素の導入が必要 ③国民経済の二部門分析の導入

その説明  $GDP = GDI = GDE$ であることを確認する（センター問題を利用）

ポイントは経済状態が均衡状態でも失業することを証明したこと

金融政策（利子率を変動させる政策）と財政政策（公共投資や福祉政策）が有効である

<完全市場の評価問題>

青山学院大学の問題を分析…余剰分析

相対取引と競争取引の比較から「見えざる手」を考えさせようとしている

相対取引では取引量は増えるが余剰は、競争取引より減っていることの事例

スミスの見えざる手は、利己的な行動の結果が、社会全体の益（＝総余剰）を最大にするということの別名→これは部分均衡分析、本当の証明は一般均衡分析でのパレート最適性を証明する必要がある

<市場の失敗>

完全市場の条件4つ

それが欠け、総余剰が減ってしまうことが市場の失敗

その1 独占のケース

その2 参入障壁のケース（省略）

その3 完全情報の欠落（情報の非対称性）…逆選択とモラルハザードのケース（ボルボが一番事故を起こしやすいという例）

質疑：教科書でリストが扱われているが、経済学でリストはどう評価されているか？

回答：近代経済学を学んだ人間にとっては、取り上げる必要がそれほどあるとは思えない

### 第三講義 中川雅之先生「高校教科書で教える経済の仕組み(財政)」

おおむね名古屋、福岡講義と同じである。内容のメモは以下のとおりである。

経済学の理論によって複雑な現実を説明できるおもしろさ、魅力がある→先生方が経済を学ぶ魅力を届けて欲しいと願ってきた

これまではそれはそれでよかったのだが、今回は違った角度から話をしてみたい

もっと深刻な話がある…将来の厳しさ（20年後 30年後の自分）を感じ取ることが大事だと思っておしている

今起きていることが「自分のこと」と思って欲しいことが、授業の大事なツールになるのではと思う

現状の確認：国家財政と家計のアナロジーで実感させる

グラフを読み取ること

日本の福祉の現状…現状はわかる、でも実感には届かない

将来やばくなるということを深追いすることが必要ではないか

これからどんな経済社会になっているか？…二つの「古い」がポイント（都市が老いて

いる、福祉が老いている（安心して老後を送れるか）＋東日本大震災のインパクト  
世代別受益負担のプラス・マイナス（世代会計）  
自分にとって厳しい運命が予想されているとしたら、どんな対応ができるのだろうか  
インフラの急速な劣化…2030年ごろから一挙に更新時期を迎える  
インフラクライシスが起る

#### 東日本大震災のインパクト

復興に際しての必要な視点…シンパシーを持つこと、でも、なんでもかんでも復旧させることではないだろう

効率的な復興をかんがえなければいけないのではないだろうか

復興した例、復興しなかった例がある…違いは衰退都市だったのか、成長都市だったのか

人口移動を促進するような政策も考える必要性がある

負担と受益のバランスをもっとはっきりさせるといい

利得のツリーで考える…コミットメント戦略がいいのではないかと

#### 質問

- 1 デフォルトの状態は？…ワイマール期のハイパーインフレがそのイメージ
- 2 希望のある話で終わりたいが？…一緒に生徒と考えてもらえるとよい

#### 第四講義 講演、大田弘子先生「日本経済の現状、地震・津波・原発事故を越えて」



安部、福田内閣で経済財政担当大臣をされた大田先生は、以下のような内容の講演をされた。メモを掲載する。なお、全文はネットワークHPに掲載予定である。

#### <日本経済の現状>

日本経済は20年間停滞していた

高齢化が着々とすすんでいる…阪神から6歳高齢化

世界経済の変化が急速

それに東日本大震災が加わる

この三つの要因の乗り切り方で、ダウンする状況もありうる

危機感を抱いている

#### <大震災と日本経済>

最震災の影響の確認から

ストックとフローの影響を分けて考えるべき

ストックは消えた、ただしフローの面では日本企業の復元力とすごい  
そのなかで、原発事故が不確実なものとなっている

1 当面の影響

2 二次的な影響

フローで見た時は回復が続くが懸念材料は他にもある

1 電力危機…原発再稼働できない状況 30%をなんらかに置き換える 電力コストが高くなる 3兆円、企業のコストを7兆円上げる 製造業は日本でやりづらくなっている

2 日本離れが加速している 企業の海外移転の加速、来日旅行者数の減少

3 財政運営への信認低下 財政規律のゆるみ、その改正の見通しが無い

4 改革遅れによる長期停滞 就職氷河期に社会に出た人間が40歳 いま10年世紀社員になれない人が累積している

<復興と日本経済>

復興において重要な点

1 経済拠点としての魅力を高めること

一番大事なのはグローバル化ではないか TPPをすすめるのが一番大事 ビジネスコストを下げるには法人税率の引き下げが必要だがやっていない

2 電力市場の本格的改革を行う

東西の交流があれば、自家発電分を売ることができれば計画停電の必要性はなかった 90年代から議論してきたが電力会社は反対 地域独占のマイナスを手痛いかたちで受けている なぜ独占になるか、規模の経済性から、しかし発電は競争できる、送電はできない(分離論が大事) 原発は国の管理下に(大田説) 今回の危機で民間がどれだけの力があるかが証明されてきた

3 デフレ脱却へ財政政策と金融政策の連携

円高になっている、それを市場介入でやろうにも効果はうすい

円高とデフレがリンク…円の価値が高い、国内での通貨が高いだから円高脱却はデフレ対策とリンク なぜデフレ需要不足 復興需要で埋め合わせられる可能性がある

4 財政の建て直し

世界経済が直面する問題(あまりにも変化が激しい)

なんでこんなに不安定か?

(1) 原因その① リーマン後の脱却のために国債の大量増発があった

原因その② 先進国の財政赤字

世界の実質的なGDPの予測の図 日本は地震で下がった 思っても見ないことが沢山発生…チュニジアの政変が大きい、産油国、原油価格の上昇、世界経済への影響

(2) 米国・欧州での景気減速感 手詰まり感 象徴:アメリカの国債格下げ

財政改革は時間がかかる 政治との関係、民衆の反対

どうすればよいか? 速攻策はない 時間をかけて王道をゆくしかない

問題は先進国 まだ途上国は余力がある

日本の経済 二度階段を下りた 石油ショック バブルの崩壊

震災後前に戻るのではだめ これをばねに変わらなければ

90年ごろのターニングポイントがきた

1990年ごろの大きな変化

ベルリンの壁、ドイツ統一、ソ連の崩壊、マーストリヒト

インドの経済解核 中国の鄧小平の南巡講和

アジアで大きく貿易が伸びる 企業の誘致合戦が起きた インフラ整備 規制緩和などが同時平行 B R I C s がはいる 外で起こった変化

国内では高齢化がすすむ

二つの変化が経済構造を大きく変えなければいけない しかし日本は変化に遅れた

その時、日本はバブルの絶頂期 うかれていた その後不良債権処理に時間をかけ過ぎた

高齢化に適合するシステムがつくれなかった

(3) 政府依存型の経済になってしまった

私(大田)の経験:成長戦略をつくること 三つの柱 グローバル化、高齢化、サービス業の生産性向上 しかしメインテーマは格差拡大となっていた

小泉が悪いとの大合唱 たしかに問題はあったが、前進させなければいけなかったが元に戻すという議論が多かった(自民党からもでてきた)

日本型雇用システムの次はどういうものかいいのかが議論できなかった 政権交代になった いまだに先の答えが見つかっていないのは事実

いまやるチャンス 危機感を共有できなかった 震災ですすがに危機感がでてきている

<日本経済を再浮上させるために>

1 グローバル経済に生きる覚悟

F T A T P P そのための農業改革 7月1日韓国とEUのF T Aスタート 韓国には勝てない 日本企業はEUに出て行って製造しなければならない 日本はどのような中間のなかで生きてゆくのかの選択 逆転ホームランだと思ったでも延期しているだけ 今しかチャンスはないのではないか 入っても入らなくても衰退している 後継者はいない

(政策の現場に携わっての感想、日本の政策には時間軸がない、政治にはない、選挙に勝たねばいけない だから目の前のことしか考えていない)

スウェーデンという国のイメージは? 福祉の先進国 強い経済を生かすためにどれだけ努力しているか ダメな企業は守らない ボルボもサーボも守らない

日本の活路はアジアである アジアの中間層の増加グラフ

2 生産性の向上

特に問題はサービス産業(アメリカと比べて6割) 日本のGDPの6割はサービス産業から生み出される 質は高いが生産性があがっていない なぜ? 供給過剰 小さい企業の競争が多い 製造業も過剰供給 比較:韓国は一業種一企業とした 選択と集中 まちづくりが必要 定置借地権(所有権と利用権の分割) 高松市の丸亀通り商店街の(政策大学院大学 日本、アジアの役人が勉強に来ている なんで日本はこんな問題を解決できないのか?という疑問 ベトナムとの比較 解決可能のはずなのにあるところで変わることのできない国になった)

しかし、乗り越えるには危機感の共有が必要

震災復興という弱みを逆転させればよい 農業 減反を止める 参入を保障する サラリーマン農家になればよい 漁業権の見直しなどが必要  
復興は、去年までその仕事をやっている人に仕事を戻すのではなく、今のこどもがその仕事で自立できるようにする

### 3 人材を生かす被災地でやってゆく

(とにかく変えるのはほんとうに難しい、特区としてやってゆかなければいけない)

政策を考える上では、誰のために役立つ法律なのかをよく考えるようにしたい

規制改革のときには、必要な規制と必要でない規制を分けるべき

売り手を守る規制はいらない 消費者を守る規制は必要だし、いらない

日本の官庁は縦割り、どうしても供給サイドを守る でも、消費者利益を増進するようにはなっていない ユーザーの側にたった改革

大きな閉塞感にある 5年先 10年先の展望が見えない

1970年 80年代のアメリカがそれに近かった 子どもの世代は親の世代より豊かになれないといわれた IT産業で何とか回復

だから「改革なくして成長なし」

<まとめ>

今やるべきこと

- 1 成長を阻んできた制度改革を断行 特にグローバル化への対応が大切
- 2 社会保障制度の設計と改革の道筋を付ける 社会保障は大連立聖域になった(若い人はどうするのでしょうか?) 後期高齢者医療制度は悪い制度ではなかったはず 格差のなかで一番多きいのは世代間格差 持続可能でなければ 将来年金をもらえないと思っているのはおかしい(国家に対する信頼がないということ)
- 3 5年程度の財政計画策定し、確実に実行する  
(ただのランチはない、これだけはみんなに共有したい やらないことにもコストがかかるのだ 例: タイピストを守る バリューフォーマネーである)  
なぜ2年か? 団塊の世代が年金支給 世界の指導者が交代 アセアン内の関税がゼロになる

日本の現場力、すばらしい経済を引き継いだ

質疑: 農業では親の顔を思い浮かべるとなかなか説得できないが?

回答: それを越えられるかどうかの問題

体験を踏まえた明快な講演で、問題点の把握、これからの対処の方向性を力強くまとめられた講演であった。

## 8月23日(火) 東京会場 高校二日目

前夜からの雨がやみ、くもり空の東京。本日で最後の講義。138名の先生方が参加された。

### 第一講義 篠原総一先生「地歴を経済の視点から読み解く」

これまでの講義と内容はほぼ同じ。エピソードなどをふんだんにいれて展開される。

内容のメモは以下のとおりである。

### <イントロダクション>

ストーリーを作って理解させることが大事

江戸時代の経済のストーリー

経済政策の失敗と藩政改革の成功が明治維新を導いた

本日の話に戻る：高橋是清の成功と失敗が戦争に導いた

大きな転換点を歴史は見ることができる 政治・経済では日常の経済生活からみるからストーリーが作りにくい

### <金本位制の理解>

高橋財政の本質を理解するには、金本位制を理解することが大事である

エピソード：金本位時代の紙幣の名残（お札にある印、サイン）

金本位制下の二つの特徴…通貨と金の交換、国内では通貨発行量を金準備で制限する

貨幣量が増えても即インフレにはならない ポイントは生産が増えているかどうか

預金をしても消費をしてもお金が増えると景気がよくなるかインフレになる

預金の流れを考えたのがケインズ

消費の流れを考えたのが古典派やフリードマンら

金本位制のもとでは為替レートは固定レートになる（仕組みを丁寧に追えばよい）

金平価 Gold parity 戦後はIMF parity

金本位制のもとでは裁量的な金融政策が実行できない 日本独自の金融政策がとれない

金融緩和の政策が取れない → 金解禁をしたら金融緩和ができる

エピソード：アルゼンチン滞在時代はカレンシーボード（1ドル=1ペソ）

但し資本移動を制限すれば国内で金融政策を実施できる

（金利、為替レート、資本移動の三つを同時にコントロールができない）

貿易赤字と金融引き締めの関係

金本位制と金輸出禁止の関係は 別物だが結果としては金本位の放棄と同じである

原内閣でなぜ金融緩和ができたのか？ 金輸出禁止となっているから

### <大正から昭和初期の経済>

金融恐慌

昭和恐慌

金解禁論争とその帰結について簡潔に説明される

## 第二講義 大竹文雄先生「高校教科書で教える経済の仕組み(市場経済)」



講義は、大阪会場とほぼ同一。講義のメモは以下のとおり。

市場経済で生徒に伝えて欲しいこと

- ① 市場経済のメリットは、売り手と買い手両者にメリットがあることである
- ② 一般的なイメージでは、弱肉強食だが、消費者の方にもメリットがある

③ 市場競争がないと、消費者が受けるメリットが減る

価格と価値は同じか？ テレビの『真夏の夜の経済学』でも扱ったもの  
需要曲線とは（NHKで使った内容）

ある商品を買うのに、最大限いくらまで原ってもいいと思っている価格→消費者にとってのその商品の価値（留保価格）

需要曲線が右下がりになる理由 階段状でも直線でも曲線（財の分割可能性の問題）

供給曲線が右上がりになる理由

大事なメッセージ 一物一価の時には、需要と供給が交わる場合に売り手と買い手のメリットが一番大きくなる

寄せられた疑問

- 1 なぜトマトか？ 在庫ができない 市場が見える
- 2 なぜ供給曲線は右上がりか？ 製造業だと生産性の問題から説明できる 一般的には留保価値で説明できる
- 3 薄利多売で価格を下げることを考えると右下がりにならないか？ 前提が間違っている（競争が厳しくない状況を考えている） 完全競争ではプライステイカー
- 4 価格選択の自由はないというが、競争の厳しい小売店などでは店ごとに価格は違うのでは？ 完全情報がない 探索コストがかかるばあいは価格が違ってもおかしくない

豊作貧乏の写真は、価格のところではなく市場の失敗の場所で置いたほうがよいのではないか

以上の疑問について丁寧に解説された。

### 第三講義 飯田泰之先生担当「経済教育に経済学はいらない？」



若手のエコノミストで、マスコミなどで活躍をされている経済学者飯田先生の講演である。内容のメモは以下のとおりである。

<自己紹介>

マクロ経済モデルが専門 軽量モデルの開発が専門

経済学には三つの流れがある

自由主義経済学 国民経済学 歴史主義経済学

私は自由主義経済学＝主流派経済学を学んだ

<経済教育の目標>

後期中等教育のディレンマ

市民的教養か どのように生きるかを教えるか どちらにするか？

社会人への準備か 大学への準備なのか

中くらいの学校だとどこに焦点を合わせるかが大変である



スタンス 大学進学するのだから大学で学ぶ内容の入門編 いやそうではない  
進学しないのだから大学のおいも いや生活の知識

<経済教育に経済学はいらない>

狭義の経済生活に必要な知識は … 経済用語、経済情勢、経済制度の知識（でも高校で勉強していない関心をもたない）

大学進学に必要な知識と、大学で教える経済学は違う

経済学の目的は

自由な取引の効率性の証明、自由主義での欠陥を補完する経済政策の提言と評価  
望ましい経済システムの探究

ここから考えると高校までの経済学はいらない

指導要領は中途半端

限られた時間で経済学のさわりを教えることに意味はあるのか？ → いらない（これが第一のプロポーザル）

<それでも若者は経済学を学ぶべきだ！>

学ぶべきものは、需給均衡分析よりも、なによりも

「経済学の思考法」にある これが一番重要なことではないだろうか（第二のプロポーザル）

経済学の思考法のエッセンスは以下のようなものである

- ①経済学は希少なものを対象としている 制約のもとで最適化行動を行う
- ②インセンティブに基づき合理的に行動している
- ③データに基づいて思考する…これが高校社会科で欠けている 経済学のエッセンスはデータ分析だが、それができていない  
データをもとにモデル作る 仮説を設定する データに基づいて理論化する

<経済学と希少性>

もともとの出発点は希少性

経済学の対象になるもの、ならないものを分別する

希少な例：昔は水、魚 今は水、魚がそれになりつつある 今、魚は枯渇しつつある…  
さばとまぐろ そのままにすると足りなくなるものは変わる

「制約つき最適化問題」を解く 自分が達成できる範囲での、制約を所与として戦略変数から最適な選択を行う思考様式を学ぶ

ミクロとマクロの違いは、どこまでが制約で、どこまでが戦略かの区別が違う

ミクロは制約を所与…内部問題

マクロは外征的な部分が変わったらどうなるかを考える…オープン問題

ある対象に外があるかないかが区別になる

<希少性からノーフリーランチへ>

欲しいものはたいてい希少

すべてのものはトレードオフ ここからノーフリーランチが出てくる

例：きわめて有利な株 全員が欲しい みんなが買いにでたら

絶対もうかると推奨するセールスマン

ただで儲かる話はない 必ずコストを支払っている

何かを得るには、何かを支払う必要がある でも、支払うのはお金だけではない  
コストの中で重要なものは、一つは心理的なもの、(働くとしんどい、なにかをやると嫌  
われるなど)

二番目は機会費用(これを知って経済学は面白いと思った)、経済学では画期的なもの(リ  
カードの比較優位説は機会費用の発見である)

比較優位説は誤解されている…両国の相対価格が違うときに機会費用が出てくる、日本  
自動車1台=牛3頭 アメリカ自動車3台=牛1頭だったとき

資源制約の限界まで続けると世界全体で豊かになる これ完全特化

完全特化は比較優位説では最後に出てくる結論(どっちでもいい話題)

特化へのプロセスが大事(完全特化は生産関数が直線のとときに成り立つ)

本当に大事なものは機会費用の概念である y

三番目は時間費用 現在と将来どちらを重視するか? 今日の100万円と一年後の100  
万円はどちらがいいか? 今日の90万円と一年後の100万円とどちらがいい

4%が割引率の区別のようなものである(阪大の研究)

#### <合理性の仮定>

経済学の想定する合理性は、個人的、金銭的な損得に限定されるわけではない

方法論的個人主義

主観価値と客観価値 経済学の基本は主観価値 (サンデルがでたのでちょっと分が悪  
くなった サンデルのリベラル批判)

自分に理解できなくても、ある人にとっては大事なものかもしれない→ビジネスチャン  
スがある

労働価値説から効用価値説に移動することで、経済学は大きく転換する(アメリカ流の  
リベラルの文脈がでてくる)

合理性の仮定は謙虚さを意味する

ウインーウイン関係の取引しか成立しない

自分にとってつまらないものを相手は高く評価するからビジネス、交換の相手になり  
うる

比較優位がここで登場 生産技術が違う、技術パターンが違う相手と取引するのが一番  
よいということ

違う人、違う相手が大事 それが合理性

合理的期待仮説というのがあるが、誤解が多い

全知全能ではなく、他人が自分と同程度にはかきこい(情報が同じである)

本来は、政府と民間は同じ程度であるということと言わんとするところからはじまった

#### <データによる思考>

ここが経済学習のポイント

テーマ学習などではぜひこれを入れて欲しい

仮説演繹法を身に付ける必要あり

データの第一の利用法 議論の前提をつくるため

次は論理的演繹

さらに、演繹を通した結論をデータで検証

経済学は、入り口と出口の両方でデータを使ってきた

自然科学でデータ思考をやるより経済学でやったほうが意味がある

真実が変化する

例：1970年代のケインズ批判 今は再評価されるようになっている

私自身は当たらなければダメの世界出身なので、理論が変化するのは当然と思っている

<経済学と経営学の違い>

ポーター、バーゲン、コトラーの登場で経営学が産業組織論に急接近している

表現上にてきている

ただし、目標は違い、価値軸は違う

経済学では、功利主義的に全国民の経済的な幸福度が大きいかが目標、

経営学では、企業の目的最大化（最大利潤なり最大顧客満足）

ただし、同じ用語でも、価値の違いは大きい 例：競争 経済ではよし、経営では評価しないなど違いはある

経済教育と経済学の関係や、経済的思考の重要性、その具体的内容を、テンポよく簡潔に語ってくれた明快な講義であった。

#### 第四講義 シンポジウム「大学入試問題と経済教育」



このシンポジウムは、本来今年の3月に行う予定だったものだが、地震の影響で延期され、夏の教室で行うことになったものである。

問題提起を新井（都立小石川中等教育学校）が行い、それを受けて、升野伸子先生（筑波大学附属中学校教諭）、関口信氏（ベネッセコーポレーション）、篠原総一先生（同志社大学教授）がパネラーとして発言した。

<新井の問題提起>

第二回の大学入試問題検討プロジェクトの紹介とそこからの知見を紹介

良問と悪問の具体例を提示

そこから抽出される6つの事項を提言した

- 1 国立大学で受験科目に
- 2 正解を発表して欲しい
- 3 出題内容のバランスを
- 4 逸脱問題は止めて欲しい
- 5 メッセージ性のある問題を

## 6 現場の教員と協議の場を

### <升野先生の発言>

プロジェクトに参加しての感想、これまでの受験指導のなかで考えたことを発言  
フロアの参加者の先生方が受験だけでなく限られた時間のなかで苦労されていることを  
挙手などの方法で確認されながら話を進めた  
逸脱問題の例なども出されて、入試問題の改善は必要と結論

### <関口氏の発言>

ベネッセで通信教育の教材作りを通して見える現場と入試問題の乖離を埋めたい  
教材受講者からは、政経の授業が面白いのは先生が魅力的、面白いというのが圧倒的  
高校での学びと大学での学びの中間に入試問題がある  
大学入試では作問の負荷がきわめて大きい  
したがって、その部分を援助できる仕組みができれば現実的に入試は改善されると判断  
大学と高校の協議の場などに教育産業の立場からも参画できるとよいと思っている

### <篠原先生の発言>

入試プロジェクトは当初、入試問題のレーティングをやって公表を考えていたが、レー  
ティングの難しさに躊躇している

その例を二つあげる

一つは本年度センター試験問題…市場経済とその問題をテーマにした問題であるが、そ  
のなかの需給曲線の問題は、経済学者としては看過できない欠陥をもった悪問であるが、  
学校関係者は応用力を問う良問としている

もう一つは関西大学の問題…市場の効率性をテーマにしているが、リード文の説明は経  
済学的にはやはり看過できない欠陥を持っている。この問題にでてくる表現は、実は高  
校教科書に書かれている内容でもあり、そこまでさかのぼると、簡単にレーティングが  
できない

入試問題と、教科書、現場の教員のトリレンマは結構深刻、それを打ち破る勇気や知恵、  
さらに何らかの行動がないと改善はすすまない

### <その後>

これらの問題提起、発言を受け、フロアの先生からの質疑、報告などがあり、問題点を  
共有したことで、シンポジウムは終了した。

以上、東京会場では二日間に亘り、夏の最後の教室が盛会のうちに終了した。なお、各  
会場で出された質問用紙に書かれた質問、意見等に関しては、整理をして9月末までに  
ネットワークHP上に回答をすることになっている。

今夏の「夏休み経済教室」は、10日間に渡り延べ人数977名の先生方が参加し、盛況  
のうちに終了した。後援、支援された各方々に感謝するとともに、今後、参加者の評価  
を踏まえ、全体の総括、来年度以降の教室のあり方、内容の点検などを行ってゆく予定  
である。

以上 記録とコメント 新井 明